

書僧贅筆

二





凡そ萬事や世の人々もまよふや、
おのゝなりれば、
日書云々今集う暇の細き人、
あうふ歌集者のそと母之の書加へらるゝと
あうふハあやまりなきたゞこの書のくみぬを
我國の書にうけまかとも、
一侍汪々本文ふくまはる新わや、
こゝにまゝ、
ぬとのなり

日書云東言語一奏白石先生の著るゝころ我國



文德帝四年三十二と云ふ

日書云少伯之乃憲の撰と一奉朝世紀ハ希代珍
書なり六國史と並て七國史と云ふことと云ふ
一わゝまゝと云ふ平家と云ふ事ハ二十
卷ありを奉朝紀と云ふ事と云ふハ四十
卷ありと云ふ

其云奉朝世紀の云ハいゝ事なり其年山

形聴ふ曰

西山云日本史と撰せたまふ時此世紀とある
所々々々たりとも今ハ後々世ハ後々

惜おへきことなり云々云々云々云々

享保云々云々云々云々云々云々云々

群書類聚中云奉朝世紀残篇一巻と云ふことと云ふ

其云云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々

利の云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々

日書云律令格式ハ國家と云ふの大室なり其國

の律ハ唐の永徵律と對照して編集なり律の末

日書云弘仁式いゝもあそとんとも倭書と
 今の物小倭學なり。人ハ和書と好まぬ。人ハ
 學文いゝ。いゝと止兩損なり。うゝま。人皇五十
 二代嵯峨天皇の治年弘仁年中出馬とて弘仁
 式と云。清和天皇の貞觀年中弘仁式の倭面小
 うつてまゐさうを憎。餘さうと減てたぬ
 倭面とあり。うゝらう。さ。貞觀式と云ふ。うゝ
 小ひさう。弘仁式の倭面ハ破をまつ。ともや
 まう。つ。とも。其ハの明法家の役人の疎。おく
 そ。い。う。わ。ハ。倭面と云ふ。仕勢。は。い。物。と。

帳の入り用なり。其の變はなき所をまゝに、入用のうゝを
 貞観式ふゝつゝ、然といひ弘仁式も貞観式ふあり
 とあり。――千後人皇六十九代嵯峨帝の延暦年中
 ふも、人も延くまゝに王室万世の諸務整く有る位
 といやうふとて、――貞観式ふて、――た
 らけぬ諸儒の命して延暦式と編集あり。――な
 けむ、あてて、貞観式は五古とあり。――こゝを
 して貞観式の入用なり。變はるか延暦式ふあり
 のきうを、弘仁式十二卷貞観式十二卷との
 中の用も、――延暦式ふ載して、延暦式は全部

校書の方と異なり、其本と云へり、此書秘
て不出高師直と云ふの権柄よりつて、秘して其
後人知之

高橋の鄭玄周書貢伊与守と川不俊貞也所不俊
なり、花圃隱集ハ、周々集ハ、玄周の事、素ハ
本、玄通鑑あり

金澤文庫内左傳の卷本、其卷有中原師光跋

金澤文庫ハ北條貞顯州創也、貞顯ハ金澤越前守
也

清原頼業見礼大學中庸論云、是聖人書也、其後來
子注始、其日本道春と云

陽村集ハ、朝鮮の權近の集也

建溪集、啓蒙傳教、天命圖說、其の書、朝鮮の李滉より
所傳なり

革命初文ハ、日本の年号の改元と爲り、載と云ふ
書なり

異端集ハ、大明唐陵、其長卿所編也

建陽記ハ、東坊城家の記録也

伏見院内記、高麗の所は不持、其自、其鑑、其至、其平
記之、其至、其北内

沙石集ハ、重一の才子、無任り、其

松芥集洞院在大臣実照所修之 其云集ハ抄

下集集ハ文安中ノ所修東鑑破衲有存

云事根源ハ一系系良撰之

弘法大師帰朝の時王昌齡集持身歌于暖帳帝宇

治物語ハ宇治大納言隆國の修り隆國ハ近江

江子西宮左大臣高明子

章演圖書編載北林圖即是耶蘇所修之

陟斯デウスと譯之耶蘇ゼゾと譯也

馮君祖典經必達共學耶蘇云

天學といふ書ハ耶蘇所修天主書儀ハ利瑪竇

所修なり

百川學海の真本ハ唐本類書考小載するところ

然しものハ向來室の川一々則ち真本なり

鉄福々宋本とて覆刻するところその他

書目彙刻書あり二冊同ありのそ新ハ利と

所ハ徒の輯所の修なり

秋後州蒲原郡乙村大日堂 元亨新書云 天平八年

南天竺の婆羅門僧正行基菩薩とてふ力をあ

りててけまを建立と今修するところの修ハ一

ハあり康暦二年庚申十二月施主下野守平時実

本願寺開山初名若松凡后鶴滿凡一名苑宴

父大職冠錄足公十八也孫皇太后宮大進有範子

也母對馬守義親女師幼穎敏有涵度志時干九入

慈鎮和尚室在青山坐立雅髮号少納言君志寬台教

建仁元年時九年喜源室上人开弘專東修念佛法往去

水室為師事之改名綽室又改名善心時年又改善

信以念佛門盛行歷行諸國二十五年又改名親焉

從其徒者不可勝計其餘稱閑東二十四輩者枝葉

日盛也貞永元年瑞法弘長二年十一月廿八日遷

化壽九十一

淨土和讃

正像末和讃

唯心鈔文意

淨土文類

尊号銘文二

後世勸諸

愚亮鈔

入出二門偈

聖德太子講式

釋道元禪師

高祖和讃

正信偈

朱燈抄二

教行信證八

西方指南鈔六

尊号真像銘文本二

三經文類

念多念別支証文

真宗肝要義

永平寺開山

久我重相通忠卿子也正治二年生幼時召者相曰
此兒骨奇秀目在重瞳不凡初建仁見榮西所負
二年入唐安貞二年歸朝後洞宗為祖也建長五年
八月廿八日寂壽五十四

永平錄

令和事清規

宝慶記

永平法語

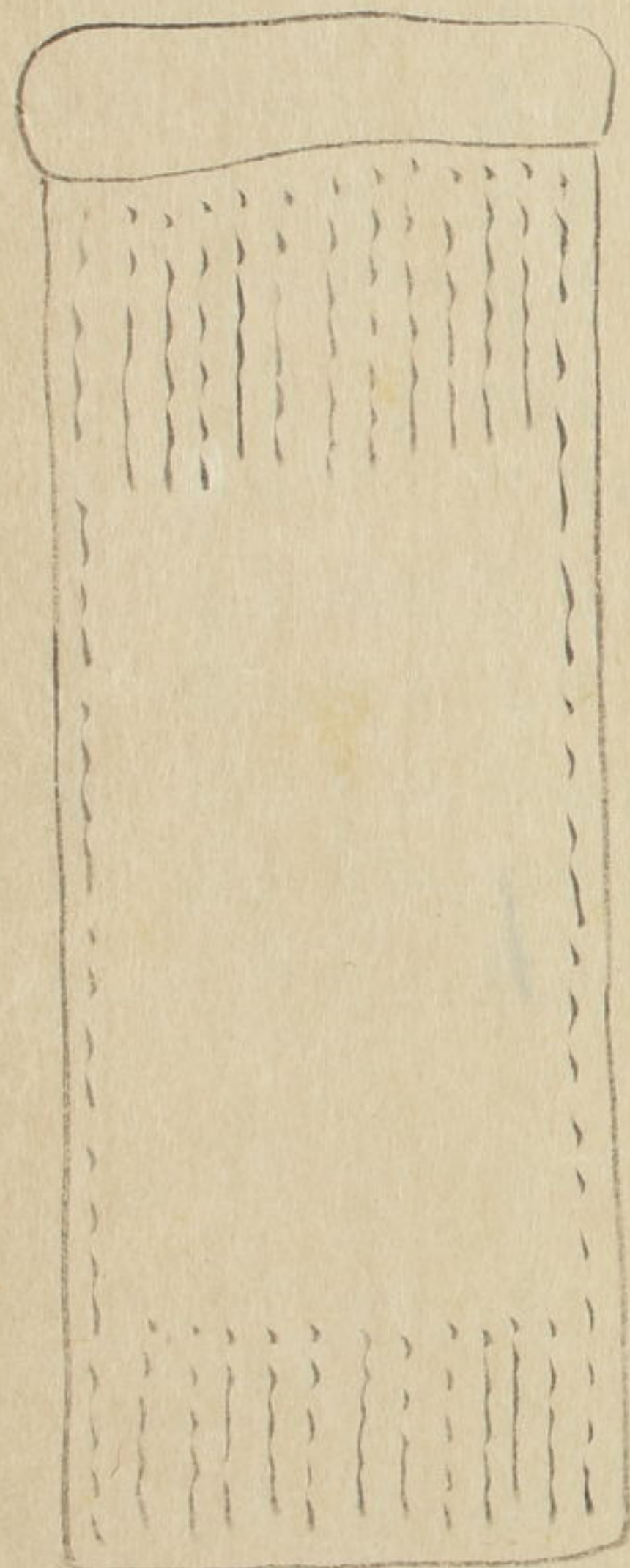
正法眼藏隨聞記 玄叢藏圖

天保五年歲次乙巳伊豆州莚山領無礼村里人傳
以松島寺の田地より一畝の地の中より出づ。

併舍利の入る一畝一個の圓のまじり。法
法つゝのり。そけい。家つゝのり。小秘初を銘と
彫てある。細字なり。拓す。こゝある。い
ふつてそ文。いふ。いふ。

丈四寸五分法徑一寸八分

外より小文字彫てあり



松本寺才三代長老善願上人
 舍利飛祀
 先師大德法諱順忍俗姓藤原
 建久幕府七年加藤列官景康
 孫也又加藤五郎其母又藤氏
 文永二十一年廿七誕生於安二
 十六歲隨忍性大德出家受具
 值興正善薩往別定云家事業
 敬將大寺作或師万人踴躍宗
 之行能一朝貴活生之悲願皆
 嘉曆元年八月十日辰刻薨坐
 入寂俗年六十二夏曆四十二
 字格ハ原の修ハアモ

陸奥國十府のさしき切村東光寺の山にうゝ新
 碑ありけ地をの松山といふ
 如けー

華嚴如來成正覺時於其
 身中普見一切衆生成正

嘉曆貳年丁卯四月日 敬白

今の今よりけりけりものハ倉庫既牧医疾
 け三令今嗣令なりさて関市令ハ單行なり云明
 年中苗田考満大人病漢なり右申ふりて板
 ふあきてせよ云々

石印の書藉と平印の所とを
 神祖の命より出ぬ

武經七書
之世不
之市
活字
古
板
の

群書治要 活字
日本書紀 活字

東鑑 活字

貞觀政要 活字

附錄王季氏孔子傳說之存字

周易古注

魏定公諫錄

あし書 原本ハ金澤文庫の本なりと

大菴一覽
玉露叢書
卷之四
初編
卷之四
初編

作付可也

憲廟

四書集注
大字大形外二種
中裝牛標木板
林氏改正

五經
單經和刻附
周易本義

待經集注
書經集注

詩書木板本皇都の書肆出雲のりゝと製
本一々顔一々一々古昔ハ題号を詩

倭音注書 倭音注とあり下小林政高とあり

77
 7

德廟

七修孟子考文補述 山井鼎著

度量考 組休著

東医宝鑑

普救類方 望三英著

太平和刻局方 望三英校

六端衍義 組休校 日くふ

明律 組休校

本朝軍器考并圖式

服忌令 大形本小
本折本

古く書ハいつても官刻小准と云ふ

廣東海急方

古く官准をいふとき此代ナリといハ文章日々
小盛昌平學校の古板多うれハいま一つ
古く云々ありといつて官刻四庫書月ある
小何をいふ小贅といふ

尾州家出藏板

群書法要

魏定公陳録 活字

紀州家出藏板

貞觀政要

水府家藏板

常山文集 義公の日記

杖東松葉集

あし二書ハ 由家へは出入のけりハ諸侯へ

賜ふりしを賣買の品としてハナリ 賣きしものなり

之や 京の山川多古跡なり 書林へ下

る板ハ

孝考古年記

日保元平治物語

中露珠貫

新編鎌倉志

花押義

日鏡 洪武正韻

常水文集

日談綺

三國華海全書

救氏妙藥集

古叢彙選

松達性生傳

難古年記

惺高文集

惺高文集ハ所板ナシ 是より先小出集一ハ江

戸けしとも 水府家藏板ハ正本ナシ 町本誤

あり 水府本ハ十三冊なり 町板ハ八冊ニ本数

より少

越州家藏板

十三經注疏 易編詩出末

日投勅記 易編出末

薩州家藏板

成形圖說

南山俗語考

會津侯藏板

詩經世本古義

日新館童子訓

日新館九經正文 詩書論語孔傳各經出末

玉山講義 三子傳信錄

二程治教錄

雲州侯藏板

延喜式

古今名物類聚 以版今書歸一乃小

珂州侯藏板

通鑑綱目

明紀綱目

宋名侯藏板

集古十種

山谷題跋

獨者集

融通念佛僧卷

通雅

求言錄

花月卅紙

法帖石刻數品出牙

阿漢津侯藏板

及重家

資治通鑑

宋司馬溫公

守山侯藏板

論語徵集覽

但練

菊經

歷朝詩集

正侯

龜山侯藏板

叔平紀何寺

史微

初二三出集

新奈田侯藏板

儀禮傳通解

山崎魚濤書集注

所式問解畧

佐倉侯藏板

堀田家

女誠和解

佐伯侯藏板

毛利家

岡藏和律

明智鳩

法華通義

德海園山
大師

五種算經

不知長高去英殿
叔母ナリ

福山侯藏板

弘安本孝經

小田原侯藏板

大久保加賀守

貞親政要

篠山侯藏板

青山家

大學衍義補

通鑑學要

御注孝經

福知山侯藩板

杉本京

春西興北回説

古今泉貨鑑

古く諸侯方の花板いかにいふところありふ
れきりやく、次第の順次さきさきいふところい
てか

医学館蔵板

聖濟總録

活字

千金翼方

元刻覆刻

成無忌注傷寒論

元板覆刻

病源候論

かのまきしるい一版
黄藤宗統録

黄藤宗統録

後水尾院龍難和尚より、今の世うと円
快く、くき大徳の僧あり、我々教同あり、れ
ハ龍難和尚より、我のくきあり、いりて、明る日
ハ敵凌ふ入とあり、これハ敵感より、くき
り、くき禁中のくき出果と

皇朝類苑

一石 皇朝類苑

敕令ありて宋板として銅板活字と出来たり
本形ハ將軍家より進献せしむる此書のより
麻沙書坊刊行とあり世より所の宋の麻沙本
として通本なりこのより通雅とも麻沙の印本の
精なりともあり國板ハ麻沙のありたり麻沙を
國板の祖とせしむる也

近衛殿活藏板

大康六典

源邸井家活藏板

禁裏鈔階梯三冊

黄蘗板一切經 六千九百三十卷為冊二千九十

四冊百七十五函 價

全部内大般若經冊本六百卷と淨土の價八百
六十七文と減七

分類價録

般若部七百廿卷 價一ノ四十文四分
宝積部百七十卷 口二百四十五文七分

大集部百四十卷 價二百二匁三分

華嚴部二百廿卷 日三百十七匁九分

涅槃部百卷 口百四十四匁五分

五大部外重訳四百廿卷 價六百六匁九分

單譯經二百九十卷 價四百十九匁一分

所合部二百八十卷 口四百四匁六分

小乘單譯經三百九十卷 價五百六十三匁六分

宋元入藏諸大小乘經餘百二十卷 價百七十三

匁四分

大乘律五十卷 價七十二匁三分

小乘律四百八十卷 價六百九十三匁六分

大乘論五百卷 價七百廿二匁五分

小乘論七百廿卷 價一ノ五十四匁八分

宋元後入藏諸論五十卷 價七十二匁三分

西土聖賢撰集以土著述千七百卷 價二ノ四百

五十六匁五分

大明後入藏諸集北苑文南苑函等附五百七十卷

價八百廿三匁七分

通計價

附千金部 大藏錄起 銀眼送錄

宝洲語録 三藏聖教目錄

全部紙箱價百五十文

荷化價四十四文

以上

大ハ半法黄蘗山々々領りの價録なり細目ハ聖
教目錄ありハ贅といひ目錄ニありて一本ハ花經
小冊とてこの一ハ一冊ハ町中なりけ本々々々
南番西番小冊といひ撰人証人各々々々ハ町板の
方蘗板とて々々々々本町板ハ花經の表とて々々々々ハ
々々々々花經の表とて々々々々和板とてハ々々々々

正統石本銅人圖經

上中下 元胸都教一帳 全四部

拓本鍼灸圖經考

多紀桂山先生 甚則頻臨録

拓本銅人鍼灸圖經三卷係于明正統八年所重
刻首有英宗御製序及狀作則三圖十六字為一
行百六十行為一段五段為一奏每段之首各標
而分之以別有都教一奏又為五段四段皆有花押
欄格今依此而改其製蓋石板廣丈余高六尺許
碑面每十四字斷為一行百六十行橫為一層凡
五層以為五段表裏刻之即為四奏意者石經之
設資便於覽誦撫拓必不如尋常碑文就石面上

下書冊行可見唐用或石後而觀也今以按樓板
正統本及徐三友重刊本剝製初閱雖間有寫訂
訛止膠頗多不章一低尚陰混拆匡家鴻宝也因
援引諸書作銅人經考撰一漏百大方之謂所不
免也

宋藝文志曰王惟一新鑄銅人胸穴鍼灸圖經三
卷鄭樵藝文志曰銅人胸穴鍼灸圖經三卷宋朝
翰林院官王惟一編修天聖中詔鍼灸之法鑄為
銅人式

王應麟玉海曰天聖鍼經五年十月壬辰置官院

上并鑄胸穴銅人式二詔一置置官院一置大相
國寺仁濟殿先是上以鍼灸之法傳述不同會尚
藥奉御王惟一考明堂氣穴經灸之會鑄銅人式
纂集旧聞訂正訛謬為銅人胸穴鍼灸圖經三卷
至是上之摹印頒行翰林學士夏竦為序

宋鄭所南の著と云ふ心史といふ書ハ誤の
處ハ入見て并中ハ知くそとつて今也ハ誤
心史といふ細目ハ下ハ云々すらうと云ふハ
姑蘇史と云ふ

咸淳集一

大義集一

中興集二

久文書一

雜文一

大義畧序一

左編

五編

正學摩磁首羅天王療一切病咒附刻阜行傳一

所載姑蘇志

則今世亦出て寫本として傳へてゐる

清姚首源云宋榻帖驗法

懷仁聖教序 以首行晉字漸為驗

政陽真本礎泉銘 以元武字補鑿痕為驗

顏平原爭坐位藁以輒有州對四字清楚為驗

智永千字本以後有姪方綱摹四字為驗

其云虽不有宋榻本以有驗為佳矣

身延寺文庫の藏書印ハ日蓮上人の藏書なり日

起上人の語なり

伊勢の相官荒木田某の女の書きなり池の藻屑

十三冊ありけ書ハ三鏡のありと云きなりう

此史なり又お明一作して月の新本もいへる書

ハ安德帝の史なりお明一々かありき之何れも

字ありて傳へる

下河辺左流大人の自筆澤去して板本不出来——
ハ万葉名寄五冊洋水和歌集二冊曾丹集一冊以
上三部なりと云ふ板本焼くとして今傳へるは松
洞燭明抄と自筆板下なりけし書の板より今小
傳へるより、契沖師の自筆の勢語臆ひ四冊今上
板して世に傳へる是れありの板板として元
格のあり何板の方ハ四辺小格のあり、本に於て
二種板本出来——自筆本——

傳帖十二帖末小奉教傳川奉勅上石より何ハ佳
かりき昔小傳帖と題するもの蓋し偽帖なり後人

は名を傳帖と傳ふもの玉烟堂法帖二十四帖と
二冊と傳帖とお明——板本小題するもの偽本
なり末小玉烟堂奉勅上石より何ハ真本なり
擬して法帖ハ末小題書するがいつ——の傳載
なり

傷寒論集注ハ二本あり一本ハ張志節著なり
一本ハ舒詔著なりそのなり法本ハ玉粒よりきもの
なり舒本ハ再重訂なり——記さるるは撰なり書
なりこのころハ傷寒輯義多紀桂ふく——年
なり

真賞方法帖三帖 為合一帖 有明第一刻也

上鐘繇薦閣內侯直表

下羲之袁生帖

下自羲之至汝安侯志六人書牘

閣帖考正曰

諸王
楷書

以倭亂燬於火更勒一遂有大

前火後之別責監家以李直表袁泰第一跋第十

十一兩行倒置者為大前本實則前後兩本無差

別也

石原刻覆刻飲讀

宋陳振孫書錄解題曰

今所引按
或美及本

